

第2回靴下ソムリエ認定試験「公開講座」の質問にお答えします。

公開講座のご参加ありがとうございました。講座受講生、およびインターネット等で寄せられましたご質問に、以下の通りお答えします。

Q. 講義内容のパワーポイント資料を公開してください。

A. 講座会場でお答えしましたように、“テキストに掲載されていない部分のスライド”のみを公開します。(別添資料をご覧ください)

Q. 靴下編機の「編針」開発の歴史を教えてください。

A. 1589年、William Lee によって靴下編機（緯編機）が発明されました。のち1775年にはひげ針を用いた経編機がイギリスで発明されました。1849年には、イギリスのマシュー・タウンSEND (Matthew Townsend) がベラ針 (Latch needle) の特許を取得し、実用化に成功し編機に大きな進歩をもたらしました。幾度かの改良を重ねながら今日まで広く使用されています。閉じたり開いたりする「べら」を持つ針で、横編機、丸編機、ラッセル編機（たて編機）など広く用いられます。

Q. P36 (10) パイル柄の文中「ロゴム折り返し部に柄模様のパイルを出すと、全面にパイルを出して…」とあるが、「前面」の誤りではないですか。

A. 「全面」が正しいです。「全パイル」を意味します。(講演時のPPTにあった「前面」は誤りです。申し訳ありません)

Q. 靴下の寸法測定方法で「置き寸法」と「伸び寸法」の規定は、編地ごとに管理（規定）する必要がありますか。

A. 編立時の糸の切り替えや室温管理により、適時（定時）に抜取検査等を行い、バラつきをなくすための管理が必要です。

Q. カットボスとモーレ柄は同じことですか。

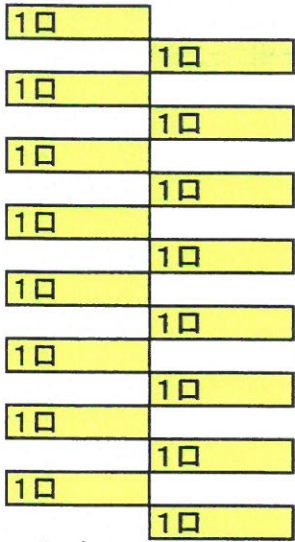
A. カットボスはカットジャガードとも言い、表糸とは異なるボス糸道から給糸される柄糸をコンピュータ選針によって編み込む方法を言います。多くの場合、柄糸を編み込んだ針が表に出るため地糸（表糸）が裏でフロートします。一方、モーレは地糸と同じ給糸口を使用し、主にベース生地を部分的に補強する場合に使用されます。モーレは細かい柄表現が難しく、むしろ細かい表現にはカットボスを使用することが多いです。

- Q. 機種別番手適合表 (テキスト P74) シングルシリンダ釜径 “3 の 4 分の 3 インチ” “3 の 2 分の 1” 「針本数 132～」のなかに 144 本は含まれますか。
- A. ご指摘の通り含まれます。テキストにあります「針本数 132～」は「針本数 132～144」が正しい表示です。また、表の「釜径欄」の表示が 33/4 となっておりますが、“3 の 4 分の 3 インチ” を表しています。紛らわしい表示になり申し訳ありません。
- Q. 静電気と洋服のコーディネイトについて教えてください。
- A. プラスに帯電しやすい素材と、マイナスに帯電しやすい素材がこすれると静電気が起こります。同じ性質の電気を帯電する素材なら、静電気は発生しにくくなります。静電気が発生しやすいコーディネイトの例として、ポリエステルスカート×ナイロンのタイツ、ウールのアウター×ポリエステルのシャツなどです。静電気が発生しにくいコーディネイト例では、ウールのマフラーにウールのセーター、ポリエステルのコートに綿のシャツなどがあります。
- Q. 「ラッチ=べら」でよろしいですか。
- A. 同じ意味です。ラッチニードル (べら針) などと用いられます。
- Q. 双糸により (撚) は入っていますか、“2 本引きそろえ” も双糸と呼びますか。
- A. 2 本の糸を撚糸したものを双糸といいます。引きそろえを双糸とはいいません。
- Q. リブ編は、編初めからは解けないとありますが、「ランしない」とは違いますか。
- A. リブの最初は「止め編」をしています。ランは「タテに走る」ことをいいます。
- Q. テキスト p120 の 5-2 プチネット柄について、4 コース、8 ウェールピッチの場合、針数 400 だときれいにリピートができて良いと思ったのですが、なぜ針数を割り切れない数にしたほうがよいのでしょうか？そもそも柄の合わせのラインが出るというのと、柄の合わせが消えるというのは、どちらが良い意味でどちらが悪い意味なのか判断ができませんでした。
- A. 添付の図説 2 件を参考にしてください。

以上

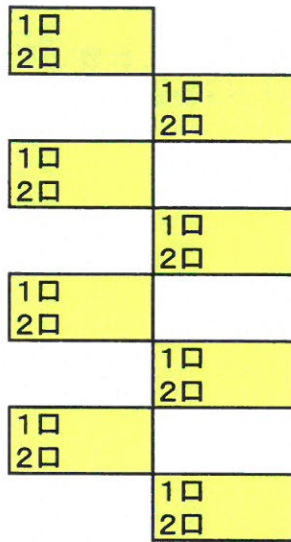
靴下編機は、丸編機でらせん状に筒生地を編みます。

1口機(1口編み)の場合



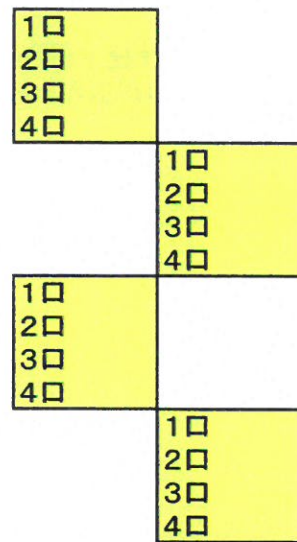
1段ズレてつながります

2口機(2口編み)の場合



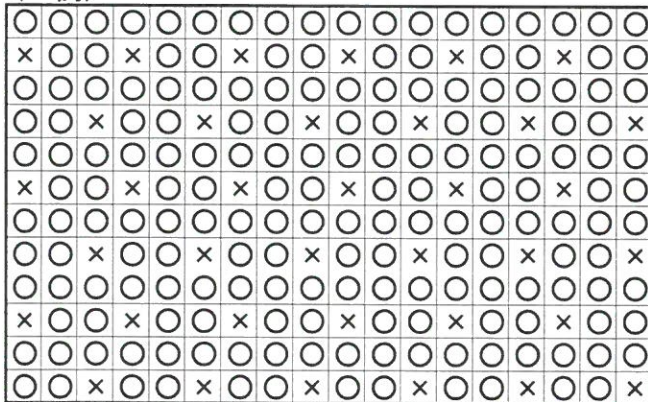
2段ズレてつながります

4口機(4口編み)の場合



4段ズレてつながります

(一例)



x印: タックループ

o印: プレーンループ

左図は、2:1マイクロメッシュのタックループの配列を示しています。

マイクロメッシュは原則として1コース置きに、タックループを何ウェールか置きに配置し、次のタックコースで1ウェール変化するのが普通である。

マイクロメッシュが連続する条件は、フィード数(口数)と針数が関係する。

4フィード(4口)の場合

$$\frac{n \pm 2}{m} = k$$

n = 針数
 m = メッシュの1単位の針数
 例 2:1メッシュなら3
 k = 正の整数

以上の計算が成立すれば、その針数でそのマイクロメッシュは連続し、n-1か、n-2かでマイクロメッシュのスパイラルの方向が変化する。

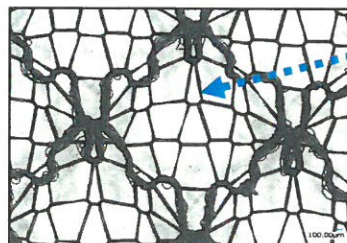
※1:1の場合、2口機では針数が奇数でないと連続しない。

4フィード(4口)機、8フィード(8口)機等、4の倍数の口数の編機では偶数の針数で連続します。

(フチネット柄の場合)

$$\frac{402 \pm 2}{4} = 101 \text{ 又は } 100 \text{ の整数}$$

$$\frac{398 \pm 2}{4} = 100 \text{ 又は } 99 \text{ の整数}$$



合わせラインがなくなる。

※K式靴下編機の平編み組織にカットボス柄・スパイラルメッシュ柄等で総柄を作る場合は、針数で割り切れるリピート柄を作るのが基本ですが、丸編機はらせん状に編んでいるので一段柄がズれます。
柄によっては、同一コースの編み始め側を1コース下げるか、編み終り側を1コース上げると段差が解消されます。

※ダブルシリンダ靴下編機で畦組みする場合は、針数で割り切れる畦組にしないと一か所、畦巾が広かったり、狭かったりする箇所が発生する。

フチネット極への質問の解説 (2)

